

④ 昭和37年3月「県政ニュースNo.39」

【県民の窓…大曲の綱引き】 2月19日は旧の小正月。この日大曲市は、古くから伝わる綱引きでにぎわいました。この正月行事は、いまから約230年前、享保12年に始まったといわれ、市の中央部寺町角を中心にして、上手に住む人たちと下の人たちが覇を競うもの。



諏訪神社の境内で数日前から準備にかかっているこの綱は、長さが60メートル、直径70センチもある太綱です。

日が暮れると綱は神社を出て町をひと廻りします。夜更けた町にとどろくのろしを合図にいよいよ開始。かけ声も勇ましく綱が引っ張られます。開戦わずか1分半、今年は下が圧倒的な強さで上を降しました。この勝負には上が勝つと米が高くなり、下が勝つと安くなるという作柄の占いがついており、今年はどうやら一般家庭にとってうれしい年になるようです。こうして勝った下の人たちによって綱が神社に納められる頃、街は元のしじまにかえり、冬の夜は静かに更けていくのです。



⑤ 昭和42年11月「県政ニュースNo.95」

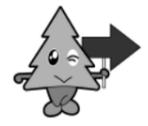
【開館した県立男鹿水族館】 男鹿半島の景勝地戸賀湾の南端に建設中の県立水族館が、このほど完成しました。この水族館は、総工費約2億円で、耐震設備を誇っています。水槽は大型回遊水槽、熱帯性海水魚水槽など45の水槽がありますが、中でも1周41メートル、水量130トンの大回遊水槽は目を見張らせます。この中には、本県の大謀網でとった

体長70センチの大きなブリやマダイなどが群れをなして泳いでおり、海中さながらの様子を見ることができます。水槽に入ってエサを与える海女さんも、見る人を楽しませてくれます。近海魚をはじめ遠くは北アメリカ産の珍魚など、合わせて約500種の魚が群れ泳ぐ水槽の周りには、ノート片手の小中学生が目を見張っています。

この水族館は、他の水族館には見ることのできない数多くの特色を持ち、魚の研究や学習に役立つとともに、男鹿観光のポイントとしての役目を果たしてくれることでしょう。

～次回の上映会は、11月10日（日）開催予定です～

■ 秋田県公文書館 ■
〒010-0952 秋田市山王新町14-31
TEL 018-866-8301
FAX 018-866-8303
E-mail koubun@apl.pref.akita.jp



【公文書館からのお知らせ】
開館20周年記念講演「古代史上の秋田 ー秋田 北辺の鄙にあらずー」
講師 秋田県立博物館名誉館長 新野直吉氏
11月1日（金）10時～11時45分 県生涯学習センター3階講堂にて開催

ハッピー・バースディ AKITA!! 「8月29日」は県の記念日です。

県政映画上映会 ～懐かしき昭和三十年代の我が秋田～

平成25年8月25日（日） 秋田県公文書館 3階 多目的ホール
午前の部 11:00～正午 午後の部 14:00～15:00

本日のプログラム

◆ ごあいさつ ◆

◆ 前半 ◆

① 昭和31年3月「県政だよりNo.5」

- ・ 第34回全日本スキー選手権大会（大館市ほか）
- ・ 県政トピックス…漁民大会とオランダ政府代表の視察（八郎潟）
- ・ 新生活運動全県大会
- ・ 春ニシンの出稼ぎ始まる
- ・ 予算県議会開く



- ・ 冬の八幡平
- ・ 特報 能代市の大火

② 昭和33年7月「県政ニュースNo.13」

- ・ 海の幸（男鹿市台島）
- ・ 盛んになる木工業
- ・ 山奥で学ぶ（旧十和田町）
- ・ 本観測ロケット飛ぶ（旧岩城町道川）



◆ 後半 ◆

③ 昭和34年6月「県政ニュースNo.21」

- ・ 県議会正副議長決まる
- ・ 東北に初のディーゼル機関車（奥羽本線）
- ・ 季節に拾う～レンゲ・秋田フキ・養蜂～
- ・ 農業用水ダム建設進む（旧六郷町）
- ・ なつかしのふるさとへ～在京県人会来秋～



④ 昭和37年3月「県政ニュースNo.39」

- ・ 予防で健康なまち（男鹿市）
- ・ にぎわう田沢湖高原
- ・ 春は間近に（旧花輪町ほか）
- ・ ～りんごの枝切り、新入学児童の検査、十和田湖のヒメマスふ化～
- ・ 県民の窓…大曲の綱引き



⑤ 昭和42年11月「県政ニュースNo.95」

- ・ 文化功労を讃える
- ・ 八郎潟第1次入植訓練終わる
- ・ 開館した県立男鹿水族館



「県の記念日」とは？
明治4年の廃藩置県によって「秋田県」が誕生した8月29日を記念し、昭和40年に制定されました。



～はじめに～

郷土秋田のニュース映画を5本上映！



かつて「県政映画」は、「県政だより」「県政ニュース」などの名前で、県内各地の映画館で本編映画の幕あいにも上映され、その時々の県政に関するニュースや各地域の話題を提供していました。

秋田県公文書館では、これら県政映画を保存し閲覧室で公開しておりますが、スクリーンで上映し大勢でご鑑賞いただく上映会も開催しております。

今回は「県の記念日」に合わせ、県内有数の観光地や各地域の伝統芸能・生活文化など、ふるさと秋田が誇る有形無形の財(たから)を記録した5本の作品を上映します。

どれも当時をしのばせる貴重な映像ばかりです。ノスタルジーあふれる昭和30年代の秋田をぜひご覧ください。

② 昭和33年7月「県政ニュースNo. 13」

【本観測ロケット飛ぶ(旧岩城町道川)】国際地球観測年のロケット観測班は、6月30日由利郡岩城町道川海岸で、本観測用2段式カップー6TW型2号機による本観測を行いました。このカップー6型ロケットは日本が観測年用に作った国産ロケットの最高のものです。

本観測を前に実験場には東京大学^{かや}茅学長も顔を見せ、観測班を激励しました。成功を念じながら最後の打ち合わせをする糸川、高木の両教授。

こうして、上層大気中の気温と風を観測しようというロケットの発射準備は慎重を重ね、いよいよ本番を迎えました。全長7.5メートルの発射台は本観測用として独特に作られたもので、この上に5.4メートルのロケットが完全に取り付けられました。発射角度75度。発射の寸前実験場付近は緊張に包まれます。観測各班の準備オーケー。「…6、5、4、3、2、1、ゼロ」一。

これは超高速カメラが捉えた発射の模様です。我が国科学陣の死命をかけた一瞬は大きな成果を収め、ここに終わったのであります。



～ナレーション採録～ ■ナレーションの一部を採録しました■



① 昭和31年3月「県政だよりNo. 5」

【冬の八幡平】自然公園八幡平は、近く十和田国立公園に編入されることになりました。八幡平の地域にはアオモリトドマツの自然林がひらけていますが、これが冬には美しい樹氷の別天地と化します。

八幡平の頂上を中心に、^{ふけのゆ}蒸ノ湯・後生掛温泉を経て^{つがもり}樅森・^{やげやま}焼山方面、東は茶臼岳・国鉄“山の家”を経て松尾鉾山方面、南は^{とうしち}藤七温泉を経て岩手山方面へと、スロープは実に広大で雪の質もよく、山岳ス

キーの興味がいっぱいに繰り広げられます。

十和田・八幡平を結ぶ雄大な規模と山水一連の^{さんすいいちれん}景観は、我が国でも^{まれ}希少な景勝地となるでしょう。

② 昭和33年7月「県政ニュースNo. 13」

【海の幸(男鹿市台島)】^{だいしま}男鹿市の台島沖では6月に入るとタイの大謀網が真っ盛り。海の男^{だいぼうあみ}30人が親船に引かれて沖へ出ていきます。網おこしは1日3回行いますが、多い時は1日8万キロの水揚げがあります。波間に獲物を狙うカモメ。水中の網にタイの群れは赤い波を立てながら引き揚げられます。1メートル近いタイを両手ににんまり。



オレンジに映える夕なぎを島へ引き上げる台島沖のタイの漁でした。

④ 昭和37年3月「県政ニュースNo. 39」

【にぎわう田沢湖高原】雪国秋田はどこのスキー場も満員の盛況です。田沢湖高原にニュー・フェイスとして登場した田沢湖温泉スキー場も、ブームに乗って家族連れや若い男女で連日にぎわっています。



ここから駒ヶ岳、田沢湖の美しい雪景色を見ることが出来ます。いこいの宿は駒草荘と、すぐ隣りにこの2月田沢湖高原ホテルが新築され、合わせて250人が泊まります。

景色の優れたこの地帯は湯量も豊富なので、ここを温泉地とする計画が具体化しており、これと並んでスキー場をさらに整備してリフトとロープウェイを増やし、県内随一のスキー場にしようと地元の人たちははりきっています。

国民宿舎駒草荘が去年ここに建ってから^{がぜん}俄然脚光を浴び、スキー場作りを急いでいたのですが、すでに600メートルの立派なスキーリフトも完成しました。積雪1メートル60センチ、氷点下5度。粉雪をけてすべるスキーは壮快そのもの。晴れた日はここ

